

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171 メール: jaera-homepage@elv.or.jp

URL: <http://www.elv.or.jp/>

回収高度化事業

第1回 ブロック実行委員長会議 開催

11月8日(金)、本年度の「回収高度化事業 第1回ブロック実行委員長会議」が開催されました。

本年度はコンピューター基板に加え、HVモーターのネオジム磁石を回収することで、地域団体を越えたより広域の体制が必要という判断から、ブロック単位での実施体制となりました。各ブロックの実行委員長は下図のとおりです。

会議では、本年度の事業全体についての説明を行った後、コンピューター基板については分類方法を説明し、ネオジム磁石については分解作業をDVD動画にて確認しました。また、各ブロックでの目標数量と各地域団体を対象とする説明会の日程が検討されました。各ブロックでの目標数量は、下図のとおりです。ネオジム磁石の回収にあたっては、発生量が少ないという想定から、磁石の買い取り単価の見直しがされました。

[参考／各ブロックの実行委員長と目標数量]

ブロック	実行委員長	コンピューター基板 回収割り当て(台)	ネオジム磁石 回収割り当て(台)
北海道	佐藤 正良	3,500	80
東北	佐藤 勇輝	1,500	20
関東(東)	木内 雅之	3,500	30
関東(西)	保坂 勇	3,000	20
中部・北陸	金森 弘元	1,500	20
近畿	高野 和憲	1,500	10
中国	西川 正克	1,000	10
四国	小泉 弘旨		
九州	村田 眞一郎	1,000	10
沖縄	松田 和生	500	10
合計	—	17,000	210

回収期間は、コンピューター基板は年初メーカー納入、ネオジム磁石は2月初めにメーカー納入予定ですので、それまでに各地域で集積し発送する予定です。皆様のご協力、よろしくお願いいたします。

(回収高度化事業 事業検討委員会 委員長 酒井 康雄)

目次

巻頭言	 1
トピックス1	
回収高度化事業 ブロック実行委員長会議	 1
トピックス2	
回収高度化事業 ブロック説明会	 2
会員活動報告	 3 ~ 4
関連団体ニュース	 5
VOICE	
～ 皆様からのお声 ～	 6
鉄スクラップ最新情報	 7
行事予定	 8
お知らせ	 8
編集後記	 8

巻頭言

先日東北の交流会で、ある方が事務局のお話をされていました。「事務局に電話をするといつも元気に快く対応してもらい、なかなか会えないけど何回も会っているように思えるよ」と。

機構の事務局は、奥野事務局長、川崎事務局員、相澤事務局員、三浦事務局員の4名です。自動車リサイクル士制度認定講習会、連携高度化事業、各部会、各委員会など仕事は多種多様です。会員さんや他の方々の声を聴くという大切な役割も担っています。

活動量が増えると事務局の仕事も増加します。しかし、事務局のみなさんには役割をしっかりとこなしていただき、私たちの想いを形にしていきたいと思います。私たちに欠かせない事務局の方々です。皆さんはどう思われますか？

(広報部会委員 平地 健)

回収高度化事業 ブロック説明会 開催

平成25年度回収高度化事業の実施に伴い、全国8ブロックで同事業の説明会が開催されました。各ブロック実行委員長が中心となり、事業の概要から詳細に至るまで説明を行い、各地域団体ごとの回収台数の割り当てなどを行いました。(各ブロックの説明会開催日はページ下部参照)

今回の事業では「コンピューター基板の分類」、「ネオジム磁石の回収技術の研修」の2つが大きなポイントとなっています。これらについては、以下のような説明を行いました。

★コンピューター基板の分類

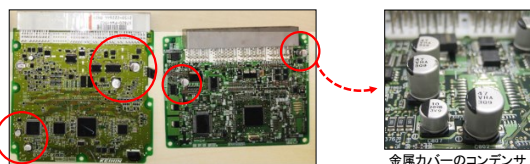
回収物品は、エンジンコンピューター基板とエアバッグコンピューター基板の2つです。それぞれを下図のように分類して集積します。

1. エンジンコンピューター基板

グループAとグループBに分類する。

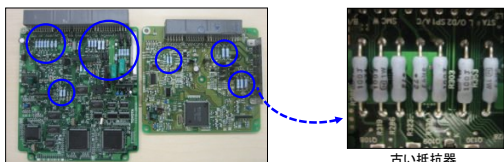
グループA / 新しいもの(パラジウム非含有基板)

★ 確実な見分け方 = 金属カバーのコンデンサがあればグループA



グループB / 古いもの(パラジウム高濃度含有基板)

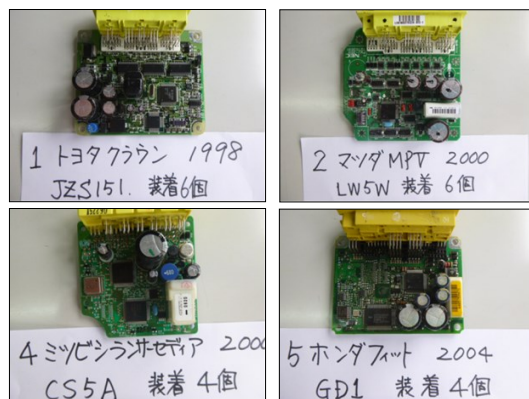
★ 確実な見分け方 = 古い抵抗器があればグループB



2. エアバッグコンピューター基板

すべてグループCとする。

グループC / エアバッグコンピューター基板すべて



★ネオジム磁石の回収技術の研修

ネオジム磁石は、回収方法マニュアルを動画にまとめ、その動画をもとに説明を行いました。現在、当機構のホームページにて会員限定でその動画を閲覧することができますので、会員の皆様はぜひ以下のリンクからご確認ください。

【動画リンク】



<http://www.elv.or.jp/ss/index.php?itemid=564&catid=38>

※ ユーザー名・パスワードの入力が必要です。

※ ユーザー名・パスワードを忘れた方は、

<http://www.elv.or.jp/0-0-10.html>よりお問い合わせください。

◆ 各ブロック説明会開催日 ◆

11月14日(木)

・ 関東ブロック回収高度化事業説明会

11月19日(火)

・ 中国四国ブロック回収高度化事業説明会

11月15日(金)

・ 北海道ブロック回収高度化事業説明会
・ 近畿ブロック回収高度化事業説明会

11月24日(日)

・ 九州ブロック回収高度化事業説明会
・ 沖縄ブロック回収高度化事業説明会

11月16日(土)

・ 東北ブロック回収高度化事業説明会
・ 中部北陸ブロック回収高度化事業説明会

ご参加くださった皆様、
誠にありがとうございました。



会員活動報告

ケニア大使、河村代表理事と会見

10月30日(水)、ケニア共和国大使館 特命全権大使であるベンソン H.O. オグトゥ氏が河村代表理事と会見しました。場所は、山梨県にある「株式会社 河村自動車工業」です。私吉川も副代表理事として同席しました。

事の始まりは、本年度の事業活動の一環で、海外事業委員会の活動調査として、当機構がどのように海外との関わりを模索したらいいか、常任役員で検討していたことによります。

右ハンドル国家であるケニア共和国は、将来我々の業界にとって非常に重要な国となることは間違いありません。日本政府も今後力を入れて、友好関係を築こうとしています。また、ケニア政府の内部でも、自動車リサイクルの重要性について真剣に論議されています。



[↑写真:ベンソン H.O. オグトゥ氏と河村代表理事]

このような要望に応じていけるよう、9月20日(金)に河村代表理事と私がケニア大使館に表敬訪問し、ケニア共和国大使館公使参事官であるポール K. ンドゥング氏と会見して当機構とケニア政府との対話を開始する旨を合意しました。これによって、今回の会見が実現しました。また、山梨学院大学のマラソン選手激励にも同行させていただき、友好を深めました。

そして、このような経緯を受け、11月11日(月)に河村代表理事と当機構の山口県支部長である吉川氏、私の3名は、ナイロビのケニアアットインターナショナルカンファレンスセンター(KICC)にて具体的な会議を行いました。この会議の詳細は次号にて報告させていただきます。
(副代表理事 吉川 日男)

東北ブロック交流会 開催



[↑写真:交流会 第1部の様子]

11月16日(土)、山形県湯の浜温泉にて、第2回東北ブロック地域団体合同交流会が開催されました。

今回は、経済産業省自動車課課長補佐小林秀司様はじめ、東北6県各団体より28名の参加となりました。

第1部では、小林課長補佐より「自動車リサイクルの現状と解体業界に対する期待」と題して講演をいただき、その後、本部奥野事務局長より今年度回収高度化事業についての説明がありました。第2部の懇親会では、楽しく和気あいあいとした雰囲気の中、会議中には飛び出さないような情報交換が賑やかにできました。

次回開催地は秋田県と決まり、次回開催成功に向け全員心が一つになりました。

(福島県自動車リサイクル協同組合 理事長 田村 幸男)

千葉県組合総会 開催



[↑写真:説明を行う千葉県廃棄物指導課 小倉 主幹]

11月16日(土)午後4時より、千葉県のJR佐倉駅前にあるホテルリッチタイムにて、千葉県自動車解体業協同組合総会が開催されました。

組合員数43社のうち15社が参加し、午後4時～通常総会、午後5時～全体会議、午後6時～懇親会という流れで進行していきました。

全体会議では、千葉県廃棄物指導課 小倉 主幹より千葉県ヤード設置適正化条例についての説明があり、その後、私酒井よりELV機構回収高度化事業に関する説明会を行いました。

組合員間の意見交換も活発に行われ、今後の活動に向けて、非常に有意義な総会となりました。

(千葉県自動車解体業協同組合 酒井 康雄)

会員活動報告

～ 自動車リサイクル士制度 関連報告～

認定講習会 開催報告

◆ 沖縄ブロック ◆



[沖縄タイムス]



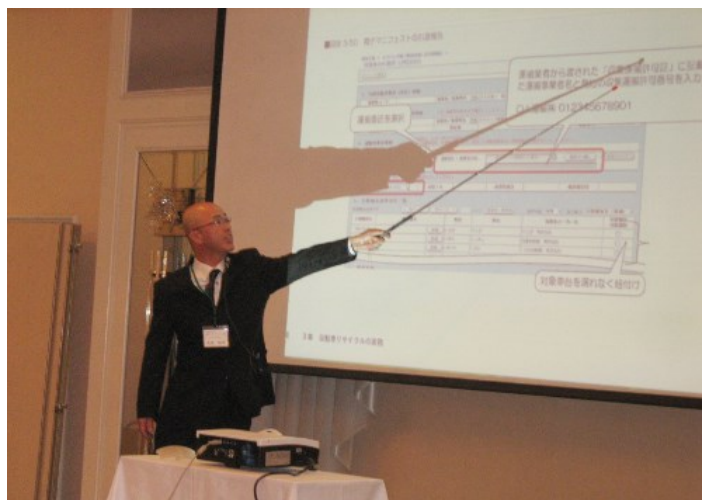
[↑写真: 沖縄ブロック認定講習会受講者の方々]

11月8日(金)、沖縄ブロックにおける自動車リサイクル士制度認定講習会がうるま市にて開催されました。

受講者45名、自治体を中心としたオブザーバー19名、その他講師などを含め、総勢71名の参加がありました。講師として沖縄県 環境生活部 環境整備課 産業廃棄物班の保坂様をお招きしました。

本講習会は、沖縄県で発行されている新聞、「沖縄タイムス」にも取り上げられ、地元の関心の高さがうかがえるものとなりました。

◆ 中国地区／中国四国ブロック ◆



[↑写真: 講習を行う鳥取県の大黒インストラクター]

11月20日(水)、中国四国ブロックの中国地区における自動車リサイクル士制度認定講習会が広島市にて開催されました。

受講者52名、自治体を中心としたオブザーバー15名、その他講師などを含め、総勢77名の参加がありました。講師として中国四国地方環境事務所 広島事務所の廃棄物対策等調査官 正路様をお招きしました。

本講習会は、中国地区の全県からオブザーバー参加があり、いい緊張感の中で進められました。

◆ 自動車リサイクル士制度に関するお知らせ ◆

1. 認定証の発行について

認定証・認定証カードは、すべての認定講習会終了後、一斉発送することとなりました。12月より順次発送予定となっておりますので、受講者の方々には誠に恐れ入りますが、しばしお待ちくださいますようお願い申し上げます。

2. 合格発表の時期について

合格発表は、それぞれの認定講習会開催日から2週間後に、日本ELVリサイクル機構のホームページ上で行っております。「自動車リサイクル士制度専用ページ」から、各ブロック情報にアクセスして、ご確認いただければ幸いに存じます。

※ 自動車リサイクル士制度専用ページ <http://www.elv.or.jp/14-0-0.html>

例: 12月2日(月) 中部北陸ブロック認定講習会開催
12月16日(月) 中部北陸ブロック合格発表



2週間後

関連団体ニュース

自動車リサイクル促進センター指定法人10周年式典 開催

11月22日(金)、東海大学校友会館 阿蘇の間にて、公益社団法人 自動車リサイクル促進センターの自動車リサイクル指定法人指定10周年式典が開催されました。式典は、第一部(講演やパネルディスカッション)と第二部(懇親会)に分かれて進行されました。

第一部では、早稲田大学大学院 環境・エネルギー研究科の永田 勝也教授より「自動車リサイクル法、その誕生の精神と今後の展開」というテーマで講演がありました。

また、「1. 自動車リサイクル法本格施行後10年間の取組みの評価」「2. 現時点での課題認識の共有」「3. 自動車リサイクルの将来に向けた展望」という3つのテーマでパネルディスカッションが行われました。このパネルディスカッションには、経済産業省より小野 正氏、日本自動車工業会より加藤 忠利氏、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネットより鬼沢 良子氏、環境省関東地方環境事務所より坂口 芳輝氏、そして当機構より河村 二四夫代表理事がパネリストとして参加し、さらに自動車リサイクル促進センターの理事長であり同志社大学経済学部の教授でもある郡嶋 孝氏がモデレーターとして参加しました。河村代表理事は、1のテーマでのディスカッションにおいて、事業者の立場から「自り法準備当時、現場では多くの人々が不安を抱えており、法規制強化を嫌う人々からは反対意見も多数あった。そのような中、リサイクル預託金の料金設定などにおける関係者の方々の大変なご苦勞を評価したい」と発言しました。

第一部・第二部と自動車リサイクル制度立ち上げにご尽力された方々が多く参加され、非常に有意義な式典となりました。



[↑写真:当機構より参加した理事ら]

JTPリファインセンター 開所



[↑写真:交流会 第1部の様子]

10月25日(金)、石川県金沢市にて、JTPリファインセンター開所式典が執り行われました。主催の日本トラックリファインパーツ協会(JTP)は、トラックパーツに特化した組合です。

当日は、経済産業省より小野室長と小林課長補佐、環境省より山口室長補佐、日本自動車工業会より山本様と鈴木様、日本自動車車体工業会より新免様、他にも石川県の行政の方々や全国の自動車関係の方々がいらしていました。

今後JTPでは、JTPリファインセンターで実務者の研修やエンジンテスター機のバージョンアップ、さらにエンジンやミッションのリビルトも手がけ、中古部品の品質向上に役立てるようです。

(ブロック長会議長 金澤 寿幸)

メーカー工場見学会 開催



[↑写真:工場見学会に参加された方々]

11月8日(金)、日本自動車工業会及び日本自動車車体工業会主催のメーカー工場見学会が開催されました。

この工場見学会には、日本トラックリファインパーツ協会(JTP)と当機構が招待されており、JTPより22名、当機構より9名の参加がありました。

日野自動車の工場では、大型車の生産ラインを見学させていただき、作業員の方々の手際の高さにびっくりしました。また、ラインを流れる車両が同じ車種ではないのに、すべての部品が取り付けられて自走で工場を出るまでの時間が9分と聞かされ、またまたびっくり。日野自動車で1917年国産のトラック第1号が作られてから100年も経っていないのに、こんなにすばらしい車がどんどん作られているのを目の当たりにして感激しました。

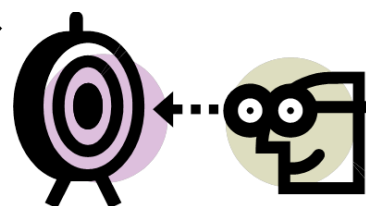
(ブロック長会議長 金澤 寿幸)

【全4回連載】第4回 「歴史は動きます。」

[代表理事 河村 二四夫]

- ◆ 6月の総会で承認いただいた新設のリユース部品委員会は、日本自動車リサイクル部品協議会の活動を全面的に支援していきます。グリーンポイントクラブ(GP)は、地球温暖化防止のエネルギー削減に有効的であり、CO2数値の理解に今後のPR活動が大事であると考えます。ELV機構は、GP制度の更なる発展促進を期待して、日本自動車リサイクル部品協議会のリサイクル部品普及活動を支援します。

- ◆ 新設の海外事業委員会は、海外事業の調査研究活動に本格的に取り組めます。日本の経済権益に有望な経済発展が見込まれる途上国に的を絞り、政府の海外援助予算を活用できる事業案を主に取り組めます。例えば、アフリカ諸国の環境リサイクル支援活動です。近日中に委員会の参加希望者登録を会員限定で募集します。新たな海外市場のスタートです。



- ◆ 2年目を迎える未来政策部会は、ELV機構の次世代指導者を育成する教育機関です。ELV機構の未来に向けた活動に取り組んでいきます。例えば、講演会やセミナーです。各方面の有能な講師陣を招聘して開催します。自動車リサイクル業界の人材育成を目指す未来政策部会をよろしくお願いします。

【全4回連載】第4回 「万が一に備えて私たち解体業者が加入すべき保険」

[株式会社 大八商会 代表取締役 小宮山 敬仁]

前回の自賠責保険の補足として、加入手続きの流れについてご説明します。
今回当社がお世話になった保険会社さんの場合、
フォークの車台番号を保険会社にFAX。
→ 1～2日営業日後、保険証書が発行され、証書受取り時に現金で支払い。
以上になります。フォークの車台番号さえ伝えれば、保険に加入できました。

次に任意保険についてご説明します。
年間の保険料ですが、対人無制限で約12000円です。
対物保証を加えると(内容にもよりますが)別途30000円程増額します。
車の保険と同様、事故を起こせば3等級下がりますが、
無事故であれば毎年5～10%の割引があり、14年後には4500円程度になります。
保証の範囲は自賠責保険と同じです。



最後に、施設所有者賠償責任保険についてご説明します。
この保険は

- 自社の看板が落ちてきた
- 爆発事故が発生した
- 天井クレーンから荷物が落下した

等、タイヤのついていない車以外で、お客に怪我をさせた場合の保険です。
会社の敷地面積で保険料が決まります。
500㎡の土地で、対人5000万円、対物3000万円の保険内容ですと、
年間の保険料は6500円程度です。(自賠責との合算はできない)

鉄スクラップ最新情報

■ 11月第3週(21日)の鉄スクラップ動向 ■

[提供／日刊市況通信社]

東京製鉄、宇都宮除き値上げ改定 中・西日本など上伸 東日本は大勢様子見

東京製鉄は11月20日、宇都宮工場を除く全拠点の鉄スクラップ購入価格を1トンあたり500円値上げした。この値上げを受けて、北海道、中部、西日本の電炉各社の値上げ改定が広がっている。これら地域の鉄スクラップ相場は500円どころの上伸となった。

一方、東北、新潟、関東地区は、一部電炉が値上げしたものの、東京製鉄・宇都宮工場が据え置いたため、大勢は様子見姿勢を維持し、値上げ改定は一部にとどまった。

電炉筋の生産量が回復していることや高炉筋の市中スクラップ手当ての増加で内需が拡大しており、製鋼各社は価格を引き上げて引き合いを強めている。ただ、これまで相場を牽引してきた関東電炉の大勢が据え置いたため、関東地区では「天井感」を指摘する声も聞かれ、一部問屋は出荷に動き出している。

ただ、輸出価格が値上がりしていることや為替相場が円安に触れていること、内需が依然好調なことから、ウラ値などが浸透し、国内相場の基調は依然強い。

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



【関東地区】相場は強基調ながらも一部で様子見姿勢

11月21日の国内スクラップ炉前実勢価格				
		H2		気配
関東	北関東	36,500	～ 38,500	強含み
	南関東	36,500	～ 38,500	強含み
名古屋		36,500	～ 38,000	値上がり
関西	大阪	37,500	～ 39,000	値上がり
	姫路	37,000	～ 34,500	値上がり

関東地区では、「上げ相場の天井も見え始め、一部問屋筋が出荷に転じている」(市中業者筋)といった情報もあり、当面の関東域内の荷動きの動向を様子見する姿勢となっている。それでも関東電炉の買値は、ウラ値やスポット価格が浸透しており、引き続き強基調の推移だ。20日時点のH2炉前実勢価格は36,500～37,500円中心、高値38,000～38,500円見当。H2浜値は36,500～37,000円中心となっている。

【東海地区】20日から電炉3社が先行上げへ

名古屋電炉のトピー工業、共英製鋼名古屋、山口鋼業の3社は20日から購入価格一律500円がたの先行値上げを実施した。前週の1,000円値上げで、今週明けにかけて地区電炉メーカーの入荷は上向き気配となり、一部ではモノによって好転も伝えられた。大手特殊鋼メーカー中心に半数は即対応は見送ったこともあり、週央の荷動きは再び鈍っている。名古屋地区のH2炉前実勢価格は36,500～37,500円中心、高値38,000円見当。

【関西地区】電炉4社が値上げ改定に踏み切る

関西地区の鉄スクラップ市況は、強含みの様相だ。合同製鉄が一律1,500円、岸和田製鋼と日鉄住金スチールが同800円、中山製鋼所も同1,000円とそれぞれ上げ幅は異なりつつも、追従値上げに踏み切っており、市況は続伸する動きとなった。需給環境はタイト感を維持する形にあり、目先も強含みで推移する公算が高そうだ。大阪地区のH2炉前実勢価格は37,500～39,000円。姫路地区のH2炉前実勢価格は37,000～37,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、11月21日午後時点のもの)

行事予定

■ 12月の主な予定

12月2日(月)

- ・中部北陸ブロック 自動車リサイクル士制度
認定講習会

12月6日(金)

- ・中国四国ブロック会議

12月11日(水)

- ・四国地区 自動車リサイクル士制度
認定講習会

12月12日(木)

- ・第9回 広報部会

12月13日(金)

- ・未来政策部会
・未来政策部会講演会(同ページ左下参照)

12月19日(木)

- ・第7回 常任役員会

12月28日(土)～

- ・ELV機構事務局 休業
※ 1月5日(日)まで



お知らせ

■ 会員数(2013年11月現在)

会員＝672社／賛助会員＝26社

■ 新規ご入会者のご紹介(2013年11月ご入会)

会員

三重県伊賀市
「株式会社 オートセンターモリ」様
岡山県赤磐市
「株式会社 三晃」様
広島県福島市
「株式会社 カーリユース」様



■ 未来政策部会講演会のご案内

未来政策部会にて講演会を開催することとなりましたので、以下のとおりご案内申し上げます。参加を希望される方は、12月6日(金)までに「会社名」「参加者氏名」をご連絡くださいますようお願い申し上げます。

※ 連絡先 → jaera-homepage@elv.or.jp

開催概要

【日時】 平成25年12月13日(金) 15:00 ～ 17:00

【場所】 日本ELVリサイクル機構 事務局

【講演】 「国境を越える自動車リサイクルに関する研究」

講師：山口大学 教育学部

准教授 阿部 新 様

【定員】 先着20名

編集後記

5年ぶりに収集・運搬の許可更新のための講習会を受講してきました。改めて受講すると、年々実態に則して、法、施行令、施行規則等が改正されていることに驚きます。▲特にコンプライアンスが叫ばれている昨今、自分の勝手な解釈で間違っコンプライアンス違反を起こすと取り返しのつかないことになりかねません。改めて法や規則を知る重要性が認識できました。▲例えば、廃棄物まがいの物を「これは有償で購入したから廃棄物ではない」などと聞くことがまれにありますが、それは間違っ解釈です。あくまで常識的な観点から形状や状態、価値などを総合的に勘案して判断されます。だから怪しい物を「1円でも値段を付けて買えば有価物」といった考え方は通用しません。気をつけたいものです。▲最後に余談ですが、我々が産廃で使うマニフェストと政治家がよく言われるマニフェストというのは全く違う言葉だということをご存じでしたか。我々の使うマニフェスト(manifest)は産廃の適正処理の管理票で、政治家が使うマニフェスト(manifesto)は声明文とか宣言書のことをいいます。

(広報部会長 永田 則男)